

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 13 日現在

機関番号：24402

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2010～2013

課題番号：22320129

研究課題名(和文)近世大坂の「法と社会」-身分的周縁の比較類型論にむけて-

研究課題名(英文)Law and Society in Early Modern Osaka: Toward a Comparative Theory of Status Marginality

研究代表者

塚田 孝(TSUKADA, Takashi)

大阪市立大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：60126125

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,300,000円、(間接経費) 3,990,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、近世大坂を主たる対象として、多様に展開する社会諸集団の複合構造(身分的周縁)を、法と社会の視点から解明し、その上で国内外の伝統都市との比較類型把握を試みたものである。研究の基盤整備のため、(1)都市大坂に関する法史料の調査・収集を実施し、(2)17世紀の町触と明治初年の大阪府布令について、法の形式と内容に注目して精緻に読解し、翻刻史料集を作成した。(3)近世大坂研究会主催の円座・国際円座を開催し、個別の実証分析と方法論を深化させた。(4)国内外の伝統都市との比較を行い、海外研究者との交流も積極的に行った。(5)それらの成果を論文集として刊行した。

研究成果の概要(英文)：Taking early modern Osaka as its focus, this research elucidated the composite structure formed by the city's diverse social groups from the perspective of law and society. In addition, it sought to understand that structure by comparing the case of Osaka with that of other traditional cities inside and outside of Japan. First, we compiled and surveyed a range of relevant legal sources, and produced two documentary collections, one containing proclamations issued by the Osaka City Governor in the seventeenth century and the other containing official proclamations issued by the Osaka Prefectural Government during the early Meiji period. Furthermore, we held a series of workshops and international symposia during which we deepened our empirical analysis of specific case studies, developed our methodology, and actively engaged with foreign researchers. Lastly, we published the results of our research in an anthology of essays.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：都市社会史 法と社会 身分的周縁 比較類型 商人と流通 貧困と救済 芸能者 町触・布令

1. 研究開始当初の背景

本研究に先行した共同研究プロジェクト「近世巨大都市大坂の形成と変容に関する基盤的研究 法と現実、中心と周縁の視点から」において、近世大坂形成期(17世紀)と近代への変容移行期(19世紀中後半)に焦点を当てて都市の**周縁的な社会集団**の実態解明に取り組んだが、そこで**法と社会**の分析視角([法の形式]と[法の内容])の両面から社会の実態を解明するとともに、法的枠組みと社会的実態の関連を考察する視角)の有効性を確認していた。

こうした視角からの大坂の都市社会の解明を近世期全体に拡張するとともに、伝統都市論によって提起されている現代都市への展望と国内外の比較類型把握を進めることが必要であると考えた。

2. 研究の目的

日本列島社会の近世は、巨大都市の展開によって特質づけられるが、それは一方で都市の社会的周縁に多様な社会諸集団を展開させることをも意味した。本研究は、**法と社会**という分析視角から、近世大坂を主な対象として、こうした周縁的な社会諸集団の存在構造 **身分的周縁** を解明することを第一の目的とし、これを通して近世都市の身分的周縁を把握する分析方法を開発し、日本国内はもちろん、大規模な都市を発展させたアジア・ヨーロッパの近世身分社会の **比較類型史** へとつなげていくことを、もう一つの目的とした。

その具体化として、都市社会の複合構造と都市法の構造を関連させて把握することを意図した。その視点から、都市法を、都市の政治空間全体を覆う公儀法度、自律的な集団内を規律する法、集団相互間の関係を規定する法、の複合として捉え、様々な社会関係によってなる都市社会の関係構造を明らかにすることを目指した。

伝統都市の比較史を進めることは、グローバル化が進む現代社会にあって、人々が共同して生きる地域社会の再生の方向を探ることを可能にするであろう。そのためには、それぞれの都市に根づく地域文化・地域社会構造の独自の特質を明らかにし、その固有性と普遍性を捉えることが不可欠だからである。

3. 研究の方法

(1)近世大坂研究会の実施

研究代表者・分担者を中心に、連携研究者、研究協力者を含めて近世大坂研究会を組織し、研究計画の立案、調査・研究状況の確認のほか、とくに定期的に小円座を開催し、研究報告や関連図書の書評などを実施した。

(2)史料調査の実施

近世大坂の町触や大阪府布令などの法史料、17世紀の史料(新出安井家文書を含む) 近世大坂の諸身分集団(とくに周縁的身分)関係史料を収集した。その際、引き

続き全国の史料所蔵機関に目を配り、大阪以外に伝わる大坂関係の史料を調査した。

(3)法史料輪読会の実施

町触輪読会 17世紀大坂の町触を精読する輪読会を定期的に開催し、同時に『大阪市史』(1915年)の編集の前提となる「町触頭書」などの翻刻史料集を刊行した。

布令輪読会 明治初年に触れられた布令を精読する輪読会を定期的に開催し、明治元年の布令の翻刻史料集を刊行した。

(4)円座・国際円座の実施

(1)~(3)の基礎的な研究活動を基盤に、実証研究の集約と方法的な議論のため、円座・国際円座を開催した。特に国内外の都市社会史研究者を招き、国内外の諸都市の比較類型的把握を進め、比較のための基軸を模索した。

4. 研究成果

(1)史料調査

以下の史料群の調査、収集を行った。

大阪市立中央図書館所蔵「小林家文書」:法史料以外の史料も調査・収集。

大阪市立中央図書館所蔵「町触頭書」「口達触頭書」

大阪市立中央図書館所蔵「幕令」:『大阪市史』に多数の町触が採録されている「幕令」は道修町三丁目記録されたものと判明。

大阪市立中央図書館所蔵の明治初年の大阪府「布令」の再調査。

大阪歴史博物館寄託「安井家文書」:静岡県袋井市で発見された新出の安井家文書を大阪歴史博物館とともに調査し、同博物館への寄託を実現した。

九州大学記録資料館九州文化史資料部門所蔵「宇土細川家文書」「元山文庫」「乙嶋守屋家文書」のうち、大坂からの抱下し者など大坂の下層社会を窺える史料。

九州大学文学部法制史資料室所蔵史料のうち大坂関係史料。

うちの「町触頭書」「口達触頭書」の明治元年「御布令」は史料集として刊行した。

(2)法史料輪読会の実施(各回10時~18時)

町触輪読会(全19回)

[2010年度]4月10日/6月20日/7月31日/11月3日/1月23日

[2011年度]4月17日/6月25日/10月22日

[2012年度]4月22日/7月1日/8月26日/11月14日/12月15日/2月17日

[2013年度]4月20日/7月14日/10月5日/1月18日/3月16日

以前から検討を続けてきた「大坂御仕置御書出之写」(杉山家文書)が終了した後、2012年4月22日から、「御津八幡宮所蔵史料」に含まれる町触をテキストとして輪読を開始した。本史料は、『大阪市史』第3巻所収の17世紀半ば以前の町触を豊富に含み、また個別町への通達のされ方も理解できるため、全く未解明の17世紀前半の大坂の町触の実態を明らかにする上で極めて重要な史料であ

る。これについては『御津八幡宮・三津家文書』(大阪市史料 41・42)に収録されているものも多いが、年代比定や翻刻方法などに問題もあり、今後検討を継続した上で、報告書にまとめていく必要がある。

大阪府布令輪読会(全13回)

【2010年度】6月6日/8月28日/12月12日/3月26日

【2011年度】5月28日/8月27日/12月10日/2月19日

【2012年度】6月16日/10月20日/1月27日

【2013年度】6月9日/9月15日/11月12日

大阪市立中央図書館小林家文書「御布令留」を素材に、『大阪府布令集』や関連史料との比較検討を継続した。『大阪府布令集』では法の差出や宛先が省略され、実際に大坂で触れられた日付を誤って掲載しているなど、不備が多いため、『小林家文書「御布令」慶応四年/明治元年-近世大坂町触関係史料4』(2013)を刊行した。これにより、法の形式と内容から、幕末維新期の大坂の都市社会の実態に関する考察を深める条件が整えられた。今後も検討を継続し、明治2年以降の布令の翻刻を進める必要がある。

(3) 近世大坂研究会・小円座(全17回)

【2010年度】

- ◎2010年6月2日 於大阪市立大学
ティモシー・エイモス「近世関東の被差別民に関する2,3の問題」
三田智子「近世畿内のかわた村」
- ◎2010年6月19日 於大阪歴史博物館
塚田孝「近世大坂の『法と社会』身分的周縁の比較類型論にむけて」
八木滋「近世大坂研究の課題」
佐賀朝「近代大阪研究の課題について」
- ◎2010年7月9日 於大阪市立大学
小円座「日韓比較地域史をめぐって」
問題提起 塚田孝、井上徹、八木滋
個別報告 山下聡一・三田智子(韓国の歴史的村落社会を見学して)
コメント 金炫榮
- ◎2010年12月11日 於大阪市立大学
小円座「近世身分社会の解体をめぐって」
ティモシー・エイモス「二つの御用と弾左衛門支配」
コメント 横山百合子、グエン・ハ・グエン、塚田孝
- ◎2010年12月12日 於大阪市立大学
小円座「比較都市史へむけて」
張智慧「上海事変と上海自由都市計画始末」
コメント 上田貴子

【2011年度】

- ◎2011年4月16日 フィールドワーク「近世大坂の都市文化を探る」解説 神田由築
- ◎2011年7月27日 於大阪市立大学
小円座「論評:ダニエル・ボツマン『隷属なき自由? - マリア・ルーズ号事件と19世紀日本の解放問題』」
書評 齊藤紘子・久角健二

- ◎2012年1月28日 於大阪市立大学
屋久健二「近世大坂天満宮と西側仲間」
- ◎2012年2月6日 於大阪市立大学
小円座「上海都市史をめぐって」
論評:榎本奏子『上海 多国籍都市の百年』を読んで … 塚田孝他

【2012年度】

- ◎2012年5月20日 於大阪市立大学
小円座「19世紀史の可能性 デビット・ハウエル『ニシンの近代史』をめぐって」
書評 加来良行・コメント 後藤雅知
- ◎2012年8月25日 於大阪市立大学
小円座「西日本諸藩における都市と流通」
町田哲「近世阿波における御林制度と御林番人」
森下徹「近世後期における萩の町人社会」
- ◎2013年2月16日 於大阪市立大学
国際小円座「大坂の都市社会史と史料テキストをめぐって」
論評 ロバート・ヘリヤー、ティモシー・エイモス、堀口朋亨

【2013年度】

- ◎2013年4月21日 於大阪歴史博物館
大阪歴史博物館共同研究・小円座「新出安井家文書の研究」
八木滋「新出安井家文書発見の経緯とその概要」
木上由梨佳「近世大坂の芝居地の社会構造」
- ◎2013年5月24日 於大阪市立大学
小円座「19世紀のかわた身分・非人身分」
塚田孝「近世大坂の形浄瑠璃興行の周縁」
三田智子「化政期の泉州南王子村」
コメント ダニエル・ボツマン、ティモシー・エイモス
- ◎2013年7月13日 於大阪市立大学
マーレン・エーラス「明治初年、越前大野藩の御救助方をめぐって」
- ◎2013年12月18日 於大阪市立大学
小円座「書評会:塚田孝『大坂の非人 乞食・四天王寺・転びキリシタン』」
書評 ティモシー・エイモス、羽田真也
- ◎2014年2月1日 於大阪市立大学
国際小円座「質屋・質業の比較史に向けて」
マウロ・カルボーニ「前近代社会における質屋と質業 比較史の試み」
西本菜穂子「近世大坂における質屋の特質」

(4) 円座・国際円座(全7回)

- ◎2011年1月10日 於大阪歴史博物館
円座「近世都市における流通・運輸と身分的周縁 法と社会の視点から」
八木滋「問題提起:近世大坂の市場社会」
西本菜穂子「都市大坂における質屋仲間」
島崎未央「都市大坂における種物流通」
原直史「新潟湊をめぐり米穀流通」
後藤雅知「近世上総養老川舟運と岩槻藩」
山田俊幸「尾張藩をめぐり諸廻船と問屋」
- ◎2011年7月30日 於大阪市立大学
国際円座「訳語問題から近世社会を掘り下げる」

趣旨説明 塚田孝「比較史の発展に向けて」
ダニエル・ボツマン「訳語問題から近世社会を掘り下げる」
ティモシー・エイモス「日本近世史と翻訳」
ジョン・ポーター「近世大坂の非人史における訳語問題」
◎2012年12月1日・2日 於大阪市立大学
国際円座「都市における貧困と救済」
問題提起 塚田孝「都市における貧困と救済 身分的周縁の比較史へ」
セッション :ヨーロッパにおける貧困と救済
マリア・ジョゼッピーナ・ムツザレリ「中世末のイタリアにおける貧困への対処」
コメント 大黒俊二、高澤紀恵
セッション :近世における貧困と救済
海原亮「都市大坂における商家奉公人の貧困と救済 住友家の事例から」
齊藤紘子「村落社会における『極困窮人』への施行・御救 泉州泉郡池上村を中心に」
ジョン・ポーター「明治初期大坂における貧民の救済と統制」
セッション :近代都市における貧困と救済
廣川和花「国際的潮流 のなかの近代日本の医療環境 ハンセン病問題を事例に」
張智慧「戦前上海における日本人居留民の貧困と救済」
飯田直樹「近代大坂の貧困と救済 警察社会事業と大阪府方面委員制度を中心に」
◎2012年3月1日・2日 於上海大学
国際シンポジウム「東アジアにおける都市社会史への視点 上海と大坂を中心に」
主旨講演
塚田孝「都市社会史の方法」
忻平「都市化・近代化問題と上海」
労働・経済と市民 (報告6本)
森下徹、徐有威、張智慧、八木滋、馬学強、巖泉
都市問題と下層民 (報告6本)
ティモシー・エイモス、廣川和花、邵雍、佐賀朝、劉長林、彭小松、市川智生
若手研究発表 (報告8本)
山下聡一、島崎未央、バルディ・ヤニック、久角健二、藤井正太、呉静、呂佳航、謝忠強
◎2013年8月24日・25日 於大阪市立大学
総括円座「都市における近世身分社会の比較史 法と社会の視点から」
セッション :芸能と勸進
八木滋「近世前期道頓堀の開発と芝居地」
神田由築「近世大坂の浄瑠璃と周縁社会」
塚田孝「17世紀後期・大坂における非人の家」
セッション :商人と職人
山下聡一「近世大坂の塩流通と御国産政策」
島崎未央「池田下村における水車絞油株の所有と経営」
町田哲「近世阿波・那賀川流域の産物と流通」

森下徹「萩城下と大工組織」
◎2014年1月8日・9日 於上海大学
国際共同シンポジウム「都市社会史の方法と実践 中国と日本の比較を通じて」
主旨講演「都市社会史の方法」
吉田伸之「伝統都市・江戸の分節的把握」
忻平「ホログラフィー史観と都市社会生活史研究」
セッション1:都市における支配・救済と社会構造 (報告6本)塚田孝、張智慧、マーレン・エーラス、王敏、井上徹、何方昱
セッション2:都市空間の形成と交通・流通 (報告4本)原直史、楊雄威、佐賀朝、徐有威
若手研究者発表会:都市史・地域史の実践 (報告6本)齊藤紘子、韓前偉、島崎未央、朱明、三田智子、呂佳航
◎2014年3月6日・7日 於大阪市立大学
国際円座「伝統都市の比較史 日本とフランスの場合」
セッション :都市の由緒と集団・家の由緒
クラリス・クロム「フランス近世の都市起源『神話』 都市と『自由』の希求」
塚田孝「垣外仲間の由緒と四天王寺」
ヤニック・バルディ「泉州における神社と人びと」
セッション :フランス歴史学界の文脈における日本近世史の意味
ギョーム・カレ「アナル特集号『日本における身分論』の序文について」
コメント 吉田伸之、森下徹、吉田ゆり子、塚田孝
(3)近世大坂研究会・小円座と(4)(国際)円座では、大坂を中心とする多様な社会集団・身分集団の具体的な実態分析、都市社会分析の方法や比較史の方法と基準などについて議論を深め、共通の認識を得ることができた。
◎ 町や村などの近世身分社会の基底集団と周縁的な集団や生産・流通に関わる仲間集団の重層と複合による分節的な社会構造の把握が不可欠であるが、その際、自生的に展開する「素人」(非公認だが、公認の存在と近似的)を議論に組み込んでいくことが必要。言い換えれば、ここでも 法と社会 の視点が重要である。
◎ モノの流通に関わる社会諸集団の関係においても、周縁的な集団の広がりや救済をめぐる関係においても、都市と農村の関係構造の分析が不可欠であること。こうした諸社会集団の変容・解体は(非ヨーロッパである日本では)近代化一般ではなく、帝国主義との関係、もしくは対峙における把握が必要。
◎ 国外との比較において、ヨーロッパではフランス・イタリア、アジアでは中国(特に上海)に焦点を当てたが、そこでの都市社会史においても、身分的周縁論・分節構造論の有効性を確認。“貧困と救済”は具体的な比較史の基軸の一つ。日本では非人(乞食・貧人)が自律的集団を成し、史料を残すが、ヨーロッパでは救済の対象としてしか史料に登場しない。

- 比較史を進め、また英語圏の日本史研究との交流を通じ、翻訳・訳語問題は意思疎通の技術レベルを超えた、新たな問題発見につながることを確認。小円座・(国際)円座では国内外の研究者の報告を組織したが、またイェール大学・シンガポール国立大学でのシンポジウム・ワークショップに参加し、海外の研究者との研究の組織化を図った。これにより今後の近世身分社会の比較類型把握の共同研究の基盤を構築。
- 2012年12月の国際円座、2013年8月の総括円座の成果を中心に、論集『近世身分社会の比較史』を刊行。社会集団の仲間法を含む『史料から読む近世大坂』(試行版/英語版)を刊行。(なお、円座報告や論集収載論文は、以下の「5. 主な発表論文等」には入れない。)

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計31件)

- 塚田孝、Early Modern Osaka Hinin and the Population Registers, D.Chapman and K.J.Krogness(eds), Japan's Household Registration System and Citizenship: Koseki, Identification and Documentation, London: Routledge, 査読有、2014、21-42
- 塚田孝「伝統都市と現在」『歴史科学』215号、査読有、2014、1-11
- 塚田孝「近世大坂の非人と人別帳」『部落問題研究』206号、査読有、2013、49-71
- 吉田伸之「幕末期、江戸の周縁と民衆世界」『歴史評論』758号、査読有、2013、44-60
- 森下徹「近世後期における萩の町人社会」東京大学日本史研究室紀要別冊『近世社会史論叢』、査読有、2013、145-158
- 神田由築「近世「芝居町」の社会=空間構造」東京大学日本史研究室紀要別冊『近世社会史論叢』、査読有、2013、19-37
- 八木滋「近世前期道頓堀の開発過程」『大阪歴史博物館研究紀要』12号、査読有、2014、1-26
- 町田哲「近世後期徳島藩における牛馬皮の流通と取締」『部落問題研究』206号、査読有、2013、2-48
- 塚田孝、The hinin and city wards of nineteenth-century Osaka, CCS(Elsevier)3-1, 査読有、2012、59-64
- 塚田孝、The Urban History of Osaka, CCS3-1, 査読有、2012、1-8
- 塚田孝「近世大坂の垣外仲間と四天王寺」塚田孝・吉田伸之の編『身分的周縁と地域社会』山川出版社、査読有、2013、5-41
- 吉田伸之「北品川の寺社門前」塚田孝・吉田伸之の編『身分的周縁と地域社会』山川出版社、査読有、2013、257-295
- 森下徹、Stevedores and stevedores' guilds, CCS3-1、査読有、2012、29-33
- 安竹貴彦「紀州藩の生命刑と牢番頭」『部落問題研究』201号、査読有、2012、59-92
- 神田由築、The traditional city of Osaka and performers, CCS3-1, 査読有、2012、51-57
- 佐賀朝、Urban lower-class society in modern Osaka, CCS3-1, 査読有、2012、65-71
- 八木滋、The people connected with vegetable markets, CCS3-1, 査読有、2012、21-27
- 飯田直樹「近代大阪における警察社会事業と方面委員制度の創設」『社会政策』4-1、査読有、2012、135-146
- 山下聡一「近世大坂生玉神社の境内と門前町」塚田孝・吉田伸之の編『身分的周縁と地域社会』山川出版社、査読有、2013、43-81
- 塚田孝「近世身分社会の再把握」『市大日本史』14号、査読有、2011、1-10
- ②塚田孝「都市大坂における非人と町方：再考」『部落問題研究』196号、査読有、2011、67-84
- ②塚田孝、Les religieux mendicants d' Ôsaka durant la période prémoderne, Annales HSS66-4, 査読有、2011、1053-1077
- ③井上徹「『華』はどのように『夷』を包摂したか？」『歴史評論』733、査読有、2011、57-70
- ④吉田伸之、Espace Urbain et corporations; Les associations de coiffeurs le Japon d'Edo, Annales HSS66-4, 査読有、2011、1005-1027
- ⑤塚田孝「一九世紀大坂の非人身分」『部落問題研究』194号、査読有、2010、30-44
- ⑥塚田孝「“都市法”紀要」復旦大学文史研究院 編『都市繁華』中華書局、査読なし、2010、475-498
- ⑦井上徹「明朝の対外政策与両広社会」復旦大学文史研究院『都市繁華』中華書局、査読なし、2010、139-169
- ⑧森下徹「日本近世における労働社会の構造」『歴史評論』721号、査読有、2010、56-70
- ⑨八木滋「近世大坂の漁業と川魚流通」『市大日本史』13号、査読有、2010、54-77
- ⑩飯田直樹「近代大阪の地域支配と社会構造」『部落問題研究』194号、査読有、2010、2-29
- ⑪町田哲「近世後期阿波における「他国無切手・胡乱者」統制と四国遍路」『部落問題研究』193号、査読有、2010、39-104
- [学会発表](計21件)
- 佐賀朝、The Social History of Japan's Brothel Districts, イェール大学東アジア研究委員会特別シンポジウム、2014年3月26日、イェール大学
- 大黒俊二、「『聖なる飛礫』からモンテ・デイ・ピエタへ」歴史科学協議会第47回大会、2013年11月17日、佛教大学
- 佐賀朝「大正～昭和初年の都市大阪における市場社会」大阪歴史科学協議会2013年度大会、2013年6月8日、関西学院大学
- 塚田孝、Early Modern Osaka Hinin and Population Registers, Asian Studies of Australia 19th Biennial Conference, 2012

年7月2日、University of Western Sydney
塚田孝「大坂の都市社会史への視点」ワークショップ「日本史研究と教育訓練」、2013年1月10日、シンガポール国立大学

佐賀朝「大学1年生が聞き取る祖父・祖母のライフヒストリー」(同前)

八木滋「博物館における歴史展示と史料」(同前)

吉田伸之「幕末期、江戸の周縁と民衆世界」歴史科学協議会46回大会、2012年11月18日、早稲田大学

塚田孝「伝統都市と現在 吉田伸之著『伝統都市・江戸』によせて」大阪歴史科学協議会例会、2012年11月4日、クレオ大阪中央

塚田孝「都市史としての大坂：再考」特別シンポジウム「City and Region in Japanese History」2012年3月28日、イェール大学

塚田孝、「近世大坂の非人と人別帳」(同前3月27日)

佐賀朝「近代大阪の都市下層社会」(同前)

八木滋「近世大坂の青物流通と市場社会」(同前)

町田哲「近世阿波の御林と御林番人 那賀川中流域を事例に」(同前3月26日)

塚田孝「近世大坂の垣外仲間と四天王寺」史学会大会シンポジウム「身分的周縁と地域社会」2011年11月6日、東京大学

塚田孝「道頓堀南部地域の開発と難波村」明清史夏合宿研究企画「伝統都市の形成」2011年8月11日、京都市聖護院宿坊御殿荘

吉田伸之「伝統都市の分節構造」(同前)

塚田孝、Hinin and Townspeople in 19th-Century Urban Osaka, AAS 年次大会、2011年3月31日、Hawaii Convention Center

井上徹「『華』はどのように『夷』を包摂したか？」歴史科学協議会第44回大会、2010年11月21日、中京大学

塚田孝「都市大坂における非人と町方：再考」部落問題研究者全国集会、2010年10月24日、同志社女子大学

④塚田孝「近世身分社会の再把握」大阪市立大学日本史学会第13回大会、2010年5月15日、大阪市立大学

〔図書〕(計10件)

塚田孝・佐賀朝・八木滋編『近世身分社会の比較史 法と社会の視点から』清文堂出版、2014、434

塚田孝『大坂の非人 乞食・四天王寺・転びキリシタン』ちくま新書、2013、254

塚田孝・吉田伸之編『身分的周縁と地域社会』山川出版社、2013、300

佐賀朝・塚田孝編『小林家文書「御布令」慶応四年/明治元年-近世大坂町触関係史料4-』都市文化研究センター、2013、147

塚田孝編『都市における貧困と救済』(国際円座報告書)都市文化研究センター、2013、123

塚田孝・八木滋編『Early Modern Osaka from the Documents English edition』(萌芽研究報告書)都市文化研究センター、2013、56

塚田孝・近世大坂研究会編『町触頭書』口達触頭書 近世大坂町触関係史料3 』都市文化研究センター、2012、246

塚田孝他『史料から読む近世大坂《試行版》』(都市問題研究報告書)2012、120

塚田孝編『身分的周縁の比較史 法と社会の視点から』清文堂出版、2010、462

塚田孝『近世身分社会の捉え方』部落問題研究所、2010、99

6. 研究組織

(1) 研究代表者

塚田 孝 (TSUKADA TAKASHI)

大阪市立大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：60126125

(2) 研究分担者

井上 徹 (INOUE TORU)

大阪市立大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：20213168

大黒 俊二 (OGURO SHUNJI)

大阪市立大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：50152096

(3) 連携研究者

吉田 伸之 (YOSHIDA NOBUYUKI)

東京大学人文社会系研究科・名誉教授
研究者番号：40092374

森下 徹 (MORISITA TORU)

山口大学・教育学部・教授
研究者番号：90263748

安竹 貴彦 (YASUTAKE TAKAHIKO)

大阪市立大学・大学院法学研究科・教授
研究者番号：20244626

神田 由築 (KANDA YUTUKI)

お茶の水女子大学・人間文化創成科学研究科・准教授
研究者番号：603220925

後藤 雅知 (GOTO MASATOMO)

立教大学・文学部・教授
研究者番号：50302518

佐賀 朝 (SAGA ASITA)

大阪市立大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：40319778

八木 滋 (YAGI SIGERU)

(公財)大阪市博物館協会・大阪歴史博物館・学芸員
研究者番号：70311446

飯田 直樹 (IIDA NAOKI)

(公財)大阪市博物館協会・大阪歴史博物館・学芸員
研究者番号：10332404

町田 哲 (MACHIDA TETU)

鳴門教育大学・学校教育研究科・准教授
研究者番号：60380135

山下 聡一 (YAMASHITA SOUITI)

大阪市立大学・都市研究プラザ・博士研究員
研究者番号：00514944